

# わが国の観光産業と海洋観光への期待

---

2014年3月25日

 株式会社三菱総合研究所

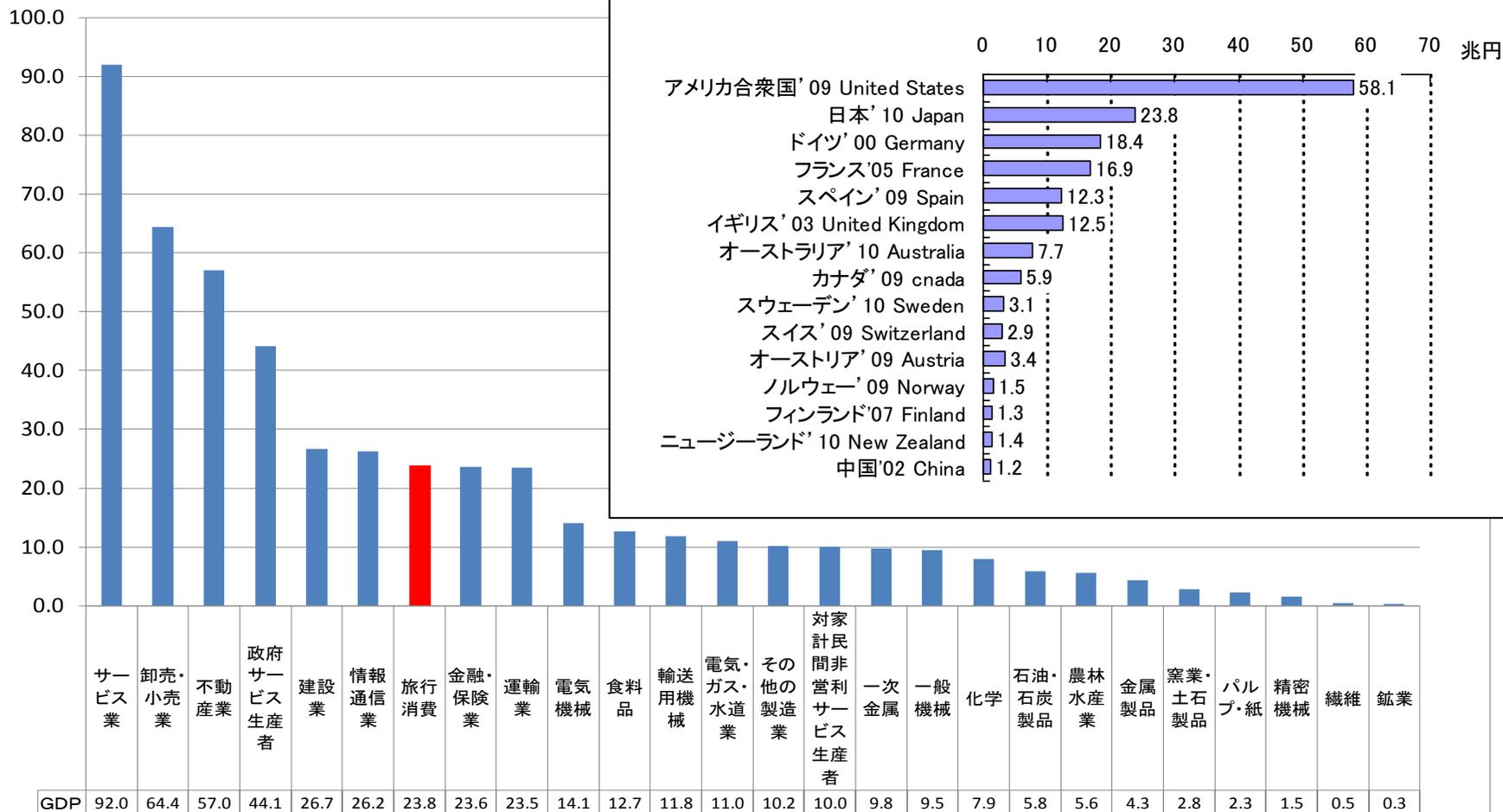
観光立国実現支援チーム  
ツーリズム・アナリスト  
宮崎俊哉

# 1.観光産業の規模～他産業との比較(観光産業は消費側から)

WTTC(世界旅行ツーリズム協議会)は、観光は世界最大の産業と主張。

## 平成22年 産業別GDP

単位:兆円



出所:旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究等よりMRI作成

## 2.わが国観光産業の規模と推移

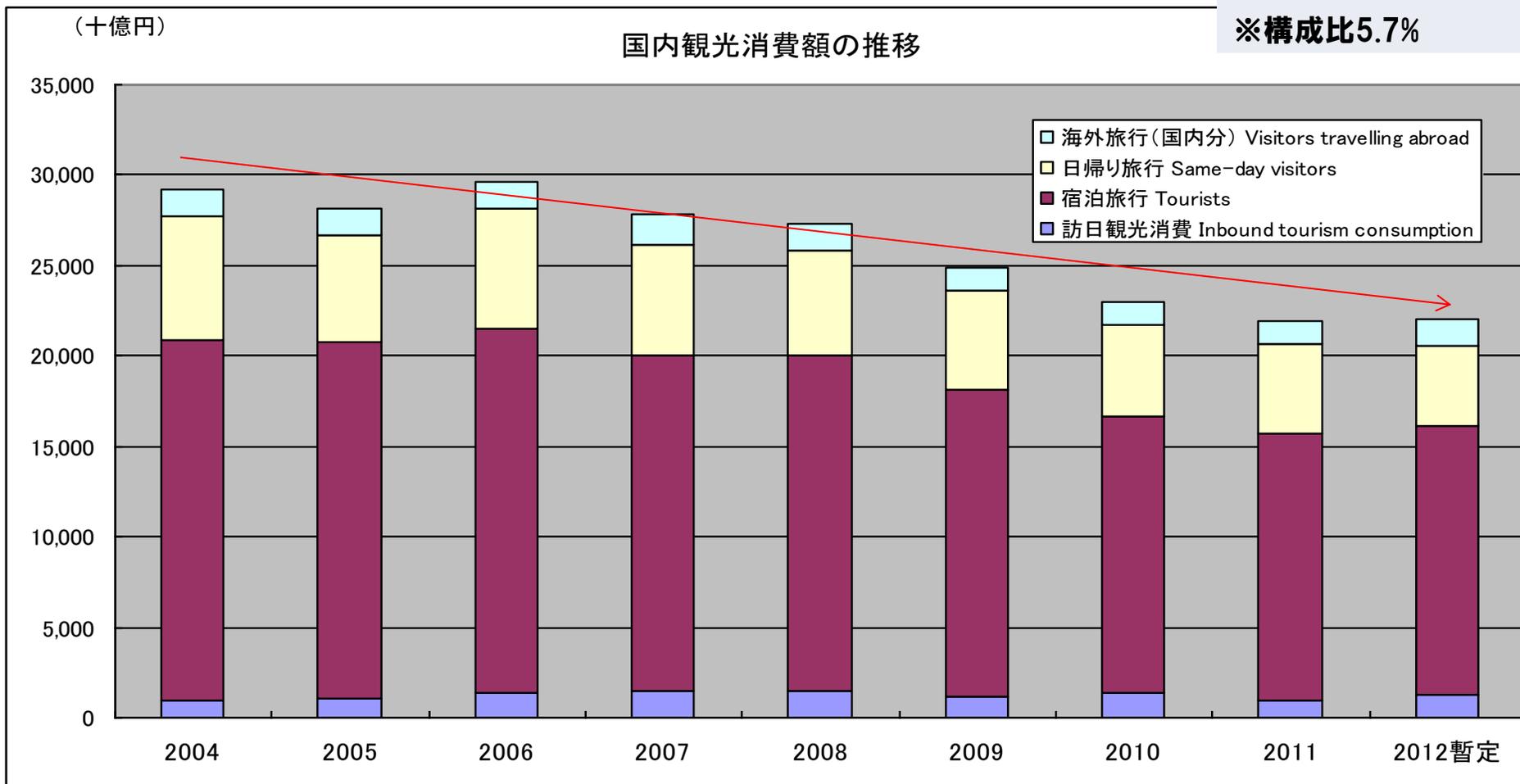
それなりの規模があるが、じり貧。施策・産業ともにてこ入れが必要。

2012年暫定 (十億円)

国内消費 22,521

うち訪日観光消費 1,292

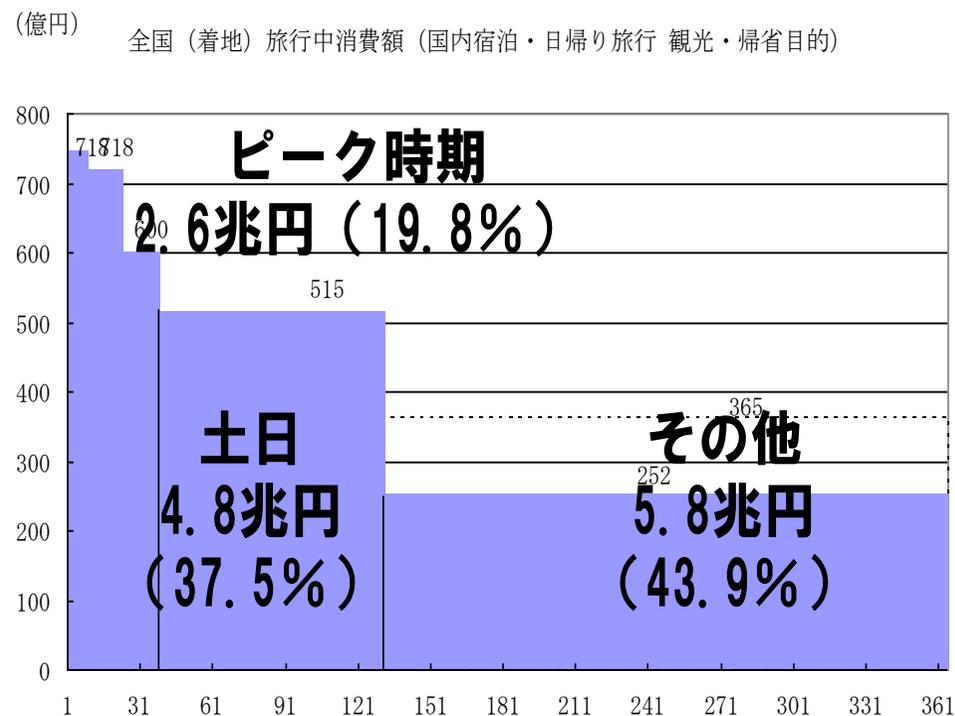
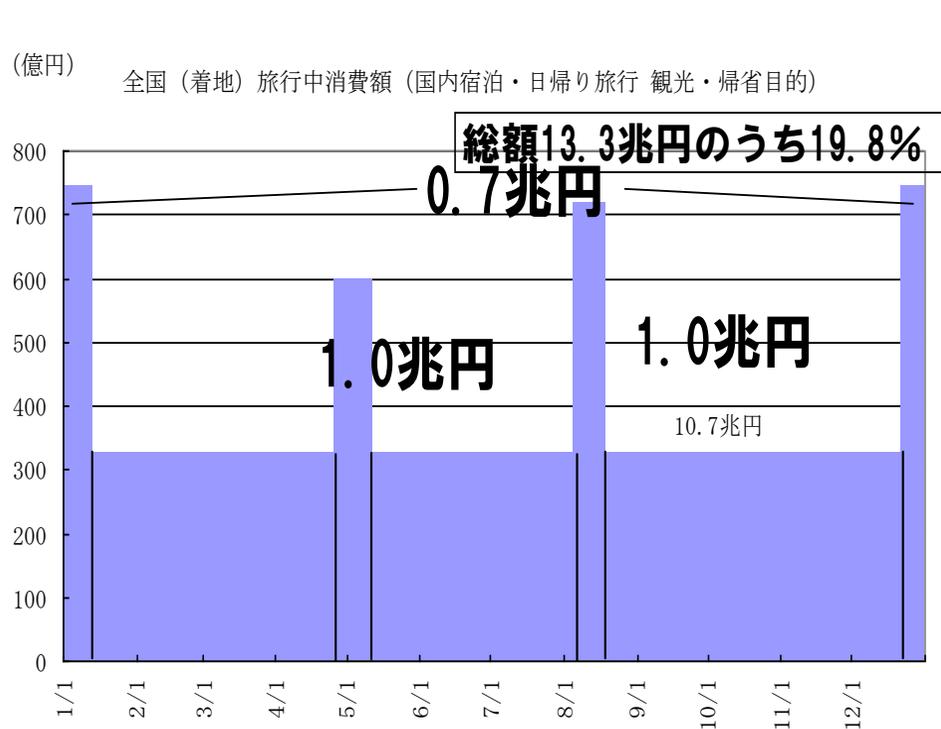
※構成比5.7%



出所: 旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究よりMRI作成

### 3. 観光産業の脆弱な構造(売上変動)

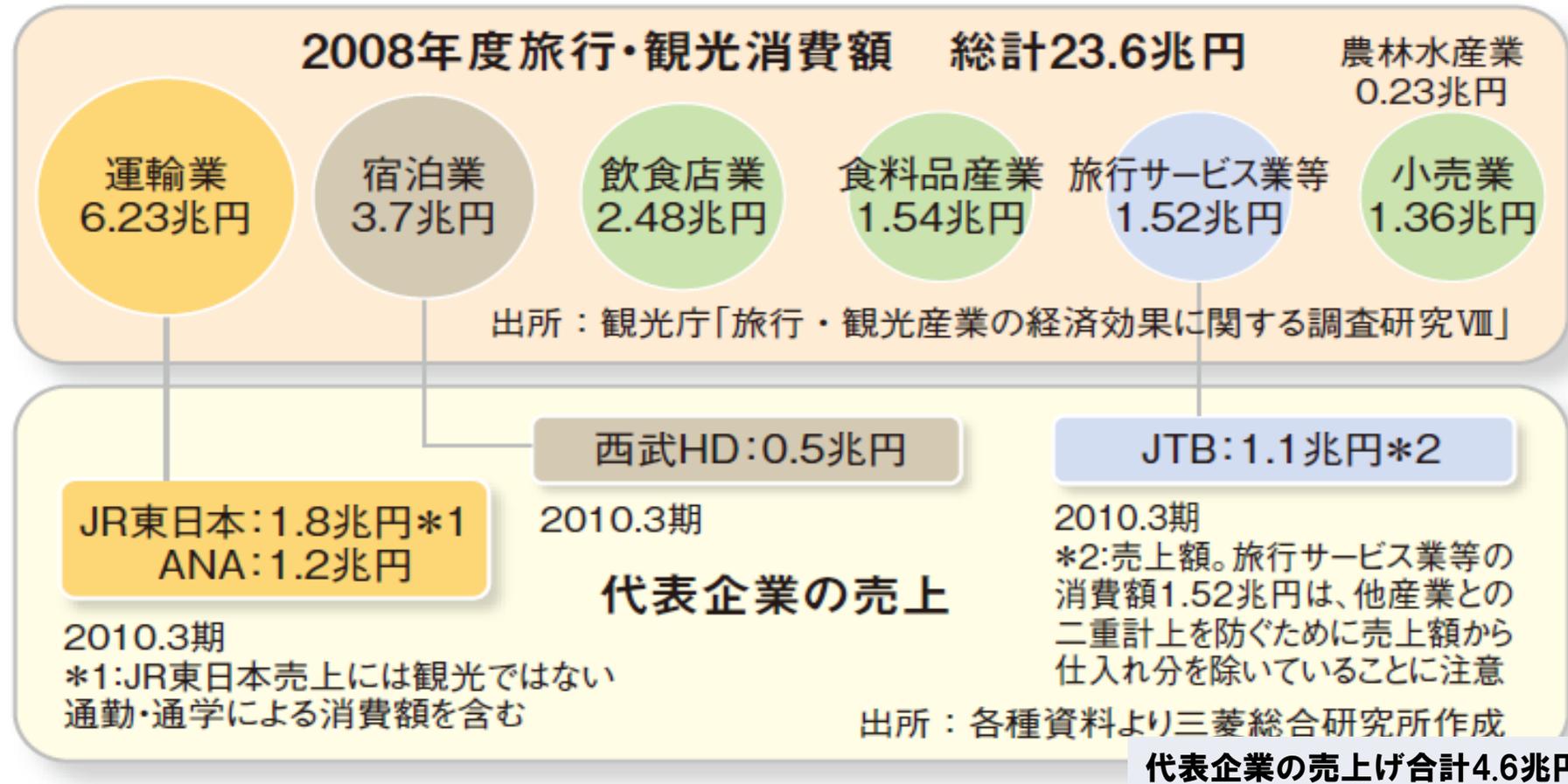
現状で既に、ハイシーズンには供給制約がかかっている。



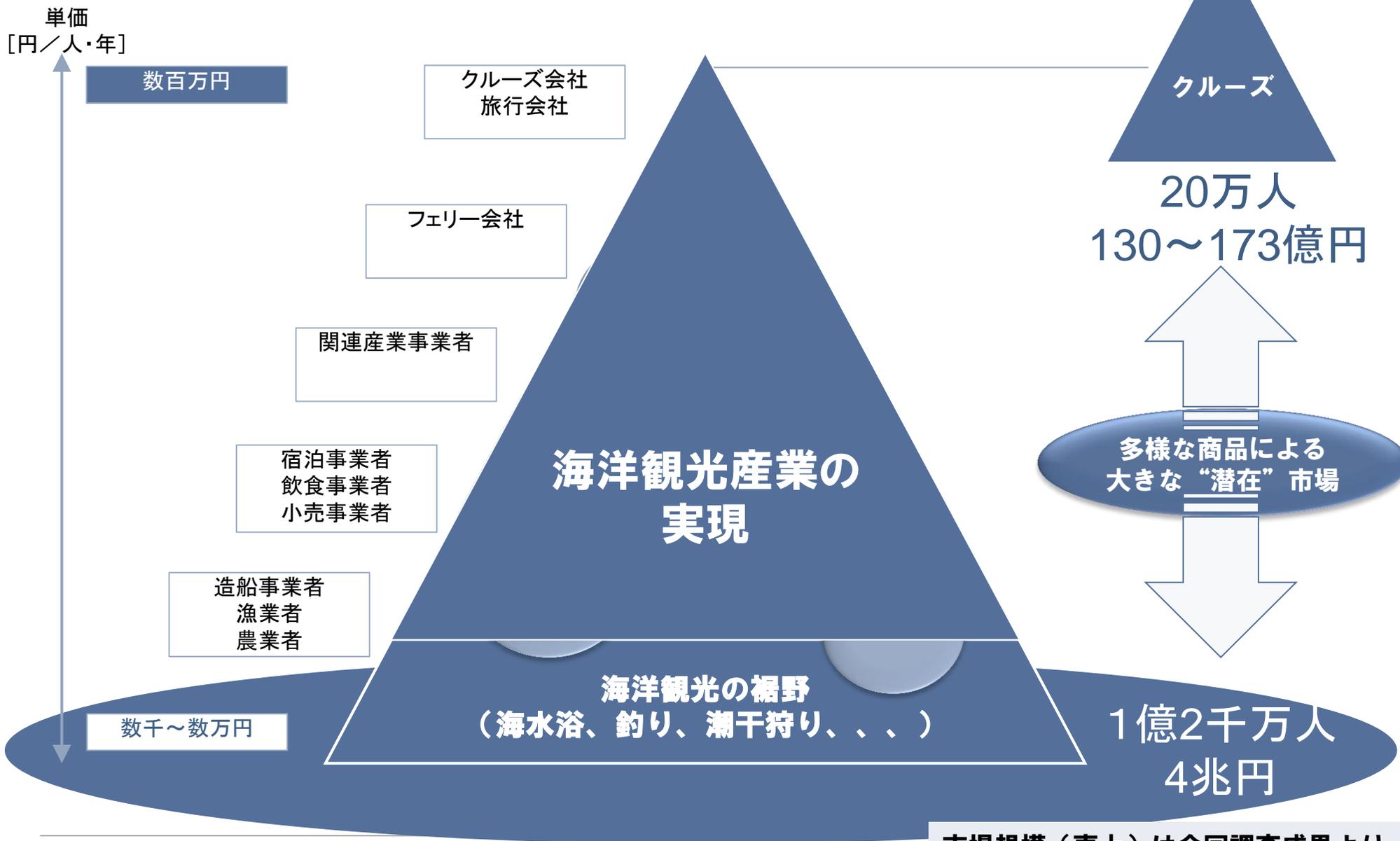
出所: 旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究よりMRI作成

## 4. 一般に想起されるプレーヤー(2008年度)

観光産業の主役はみえない方々。(メジャーどころでのみでは成立しない)



## 5. 海洋観光への期待 新たなプレーヤー、アプローチで市場化が可能



# 参考 2020年東京大会 整備予定施設・インフラ等

## 海洋観光の可能性！



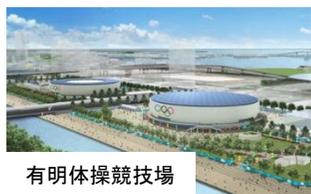
オリンピックスタジアム



選手村



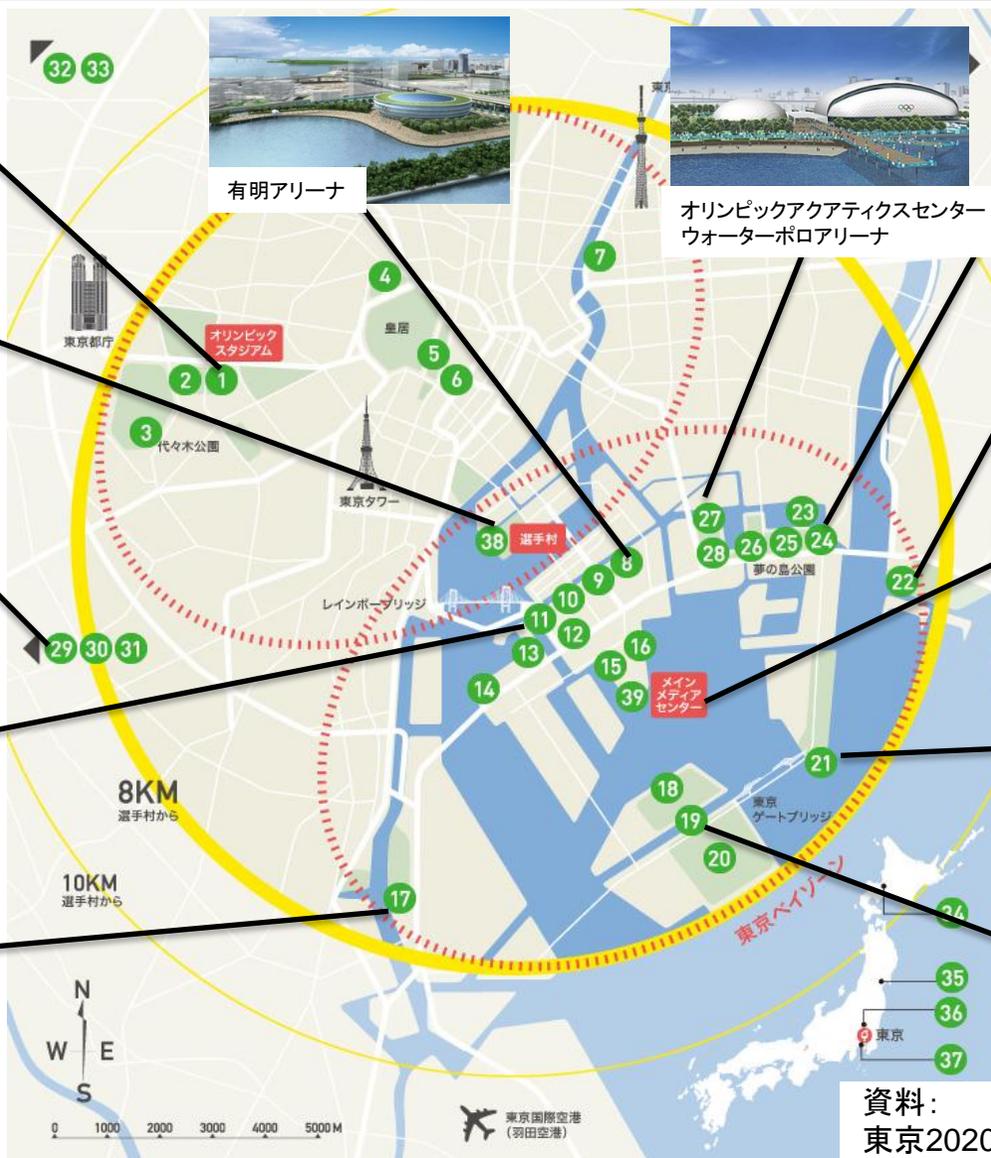
武蔵野の森総合スポーツ施設



有明体操競技場



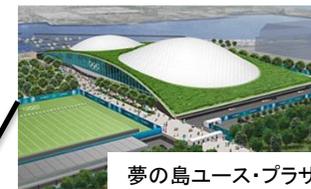
大井ホッケー競技場



有明アリーナ



オリンピックアクアティクスセンター  
ウォーターポロアリーナ



夢の島ユース・プラザ



葛西臨海公園



IBC/MPC



若洲オリンピックマリーナ



海の森水上競技場

※地図中の数字は前ページの番号に対応  
写真は新設する主な施設

資料：  
東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会  
ホームページ等より転載

# 参考 2020年東京大会 地方の動向

## 海洋観光の可能性！

- ◆ 各地で五輪対応組織設置
- ◆ 東京五輪前後のスポーツ大会も含めた、キャンプ地・会場誘致や観光誘客、地場産業振興
- ◆ 東西で若干の温度差
- ◆ 地域ブロック単位（都道府県単位では競争力弱い）での取組み、全国ネットワークの形成が必要

新潟県：県庁内連絡会議(2013/12/26)。県・市町村・体等の協議会(予定)。選手発掘、観光誘致。

燕市：市・商工会議所・日本金属洋食器工業組合などは金属加工技術を広く発信する新たなプロジェクトを設立

長野市：平昌五輪・東京五輪合宿誘致

東御市：高地トレーニング用プール誘致

富山県：合宿誘致プロジェクトチーム

石川県：繊維協会・五輪需要関連開発プロジェクト

京都府・市：五輪期間中に大規模な文化祭典開催

鳥取県：県庁内合宿誘致部署

秋田県：事前合宿招致等推進本部(2013/10/15)

北海道：道・札幌市で冬季五輪誘致検討の場設置。東京五輪の合宿誘致・観光も推進。2015年度北海道新幹線。2017年冬季アジア大会。

福島県：関連事業推進本部(2014/1)。Jヴィレッジ再整備と合宿誘致

栃木県：推進本部会議

茨城県：推進本部会議予定(14年度)

千葉県：五輪戦略本部(13/11/21)

千葉市：海外インバウンドツーリズム推進協議会(13/11/14)。東京五輪本部(13/11/25)。

神奈川県：五輪のための神奈川ビジョン2020推進本部会議(2013/10/4)

山梨県：推進本部(2014/2予定)

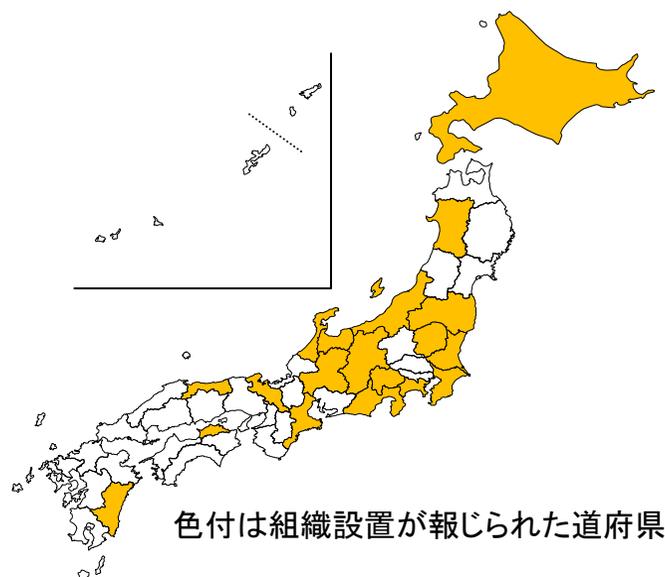
静岡県：推進本部(2013/10)

岐阜県：清流の国ぎふ2020プロジェクト推進本部(2013/11/19)

三重県：キャンプ地誘致等推進本部(2013/12/24)

宮崎県：五輪おもてなし部会(13/12/9)

香川県・高松市：合宿誘致・選手育成で連携



色付は組織設置が報じられた道府県

(出典) 日本経済新聞記事やWEB情報をもとにMRI作成